

学術雑誌総合目録和文編新版全国調査の実施

本年の秋に予定しております標記全国調査の日程が決定しましたのでお知らせします。

予備版、データシート等調査資料送付	平成元年10月
全国調査開始	平成元年11月1日
記入要項説明会	平成元年11月中
全国調査締切り	平成2年4月27日
磁気テープのロード	平成2年5月～平成2年7月
データ編集	平成2年5月～平成3年3月
確認調査	平成3年4月～平成3年6月
冊子体編集	平成3年7月～平成4年2月
「学術雑誌総合目録和文編」刊行	平成4年3月

調査方法はオンライン・ニュースレターNo.18(1989.5.23)でお知らせした通りですが、詳細については10月中に送付します「データ記入要項」を参照して下さい。なお、記入要項説明会を、11月中に全国6か所(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡)で開催予定ですので、是非御参加下さるようお願いいたします。

また、今回の全国調査期間中(現在から平成3年6月までの期間)に限り、和雑誌の重複レコードを見つけた場合は、「削除予定レコード」処理をせずに、センターに「目録情報に関する質問書」と画面のハードコピーを添えて報告して下さい。

日本名の統一書名典拠の適用

これまで目録システムでは、統一書名典拠は外国名の著作についてのみ適用してきました。当センターでは、日本名に対しての統一書名典拠の適用に関して検討を行ってまいりましたが、このたび、適用が正式に決定しました。

これに伴い、「目録情報の基準」を次のように改訂し、平成元年10月1日より適用します。

改訂前	改訂後
<p>9.2.1 統一書名典拠レコードの作成</p> <ol style="list-style-type: none">1) 略2) 略3) 当面、統一書名典拠の作成範囲を無著者名古典及び聖典に限る。ただし、和著作については、当分の間統一書名を適用しない。	<p>9.2.1 統一書名典拠レコードの作成</p> <ol style="list-style-type: none">1) 略2) 略3) 当面、統一書名典拠の作成範囲を無著者名古典及び聖典に限る。
<p>9.4 統一標目形</p> <p>統一標目形(HDNG)は、その統一書名典拠レコードの記録対象を示す名称である。統一標目形の中には、書誌レコードの統一書名標目の形及び表記の統一と他の標目との区別に必要な事項が含まれている。ここでは、当面、外国名の統一書名の統一標目形について規定する。</p>	<p>9.4 統一標目形</p> <p>統一標目形(HDNG)は、その統一書名典拠レコードの記録対象を示す称である。統一標目形の中には、書誌レコードの統一書名標目の形及び表記の統一と他の標目との区別に必要な事項が含まれている。</p>
<p>9.4.1 統一標目形の構成</p> <p>統一標目形は、統一書名と付記事項からなる。</p>	<p>9.4.1 統一標目形の構成</p> <p>統一標目形は、統一書名、統一書名の付記事項、ヨミからなる。</p>
<p>9.4.2 統一標目形の形及び表記</p> <ol style="list-style-type: none">1) 統一標目形の形及び表記は、AACR2とそのLC適用細則における標目の形に関する条項を適用する。2) 略3) 略	<p>9.4.2 統一標目形の形</p> <ol style="list-style-type: none">1) 統一標目形の形は、原則として日本名についてはNCR、外国名については、AACR2とそのLC適用細則における標目の形に関する条項を適用する。2) 略3) 略
<p>9.4.3 [追加]</p>	<p>9.4.3 他の目録規則による標目の形</p> <p>統一標目形の形に適用しなかった目録規則(NCRを適用したときはAACR2、AACR2を適用したときはNCR)に基づく標目の形が必要な場合は、典拠レコード中の「から見よ参照」フィールドに統一標目形と同様に記録する。(この時、他の「から見よ参照」と区別するためにフィールドの先頭に '*' を記入する。)</p>
<p>9.4.4 [追加]</p>	<p>9.4.4 統一標目形の表記</p> <ol style="list-style-type: none">1) NCRに基づく統一書名には、原則として、ヨミを付ける。ヨミは、統一書名及び付記事項の全体につける。2) AACR2とそのLC適用細則に基づく統一書名はローマ文字で表記する。

ローマ数字などの扱い

「コーディングマニュアル」の1.1.2(転記の原則)でも示したとおり、総合目録データベースへの目録登録作業においては、目録システム用文字セットのみを用いるようお願いいたします。

各参加組織で使用する目録端末においては、目録システム用文字セット以外の文字・記号が入力可能な場合がありますが、これらの文字・記号を使用した場合、同一メーカーの同一機種では表示・印刷等が可能であっても、他のメーカー・機種の端末では表示できなかつたり、文字化けしてしまうことがあります。

例えば、ローマ数字(II、ix等)、まるつき数字(1、31等)、てんつき数字(3.、8.等)、かっこつきローマ字(a、u)等等は、パソコン、ワープロでは標準装備の傾向があり、目録端末でも入力可能な場合が多いため、目録対象資料からの転記の際にうっかり使用してしまう事例が多数あるように思われます。これらの文字・記号は、各メーカーが独自に定義したものであり、JISでは未定義です。

また、一部の目録端末においては、1バイトコードの「~」が入力可能なようですが、目録システム用文字セットにおいては、波ダッシュは2バイトコードでしか定義されていません(NVTコード:2141)。

以上のことを念頭におき、各参加組織のシステム担当者及び目録担当者は、目録システム用文字セット以外の文字を入力しないよう、注意をして下さい。また、既存レコードのデータ中にこのような外字を発見した場合は、レコード修正を行い、目録システム用文字セットによる表現をして下さるようお願いいたします。

NACSIS-IR(目録所在情報データベース)

NACSIS-IRでサービスしている目録所在情報データベースに対して、オンライン接続館からデータの更新及びマニュアルの配布に関して質問がありましたので、この場で回答いたします。

1. データベースの更新について

NACSIS-IRでサービスしている図書目録所在情報データベースは、目録システムで作成されたデータを加工して提供しています。目録システムのデータは日々追加・修正されていますので、更新のサイクルが短いほど最新のデータが提供できることとなります。ニュースレターNo17では、更新の予定を月1回とお知らせしましたが、現在は週に1度、毎週火曜日までのデータにより更新を行っています。

なお、同じくNACSIS-IRでサービスを行っている雑誌目録所在情報データベースについては、年2回、4月と10月に更新を行っています。

2. 利用マニュアルについて

図書目録所在情報データベースの検索に際してはMARCデータベース及び雑誌目録所在情報データベースの利用マニュアルを併用していただくという方式をとってまいりましたが、このほど図書目録所在情報データベースの利用マニュアルが完成しました。NACSIS-IRを利用されている接続館で配布等を御希望の場合は、共同利用係までお問い合わせ下さい。

教育用目録システムの環境の変更

平成元年9月28日現在、目録システムには100機関が接続しており、登録された端末台数は849台となっています。さらに、今年度中に20機関以上の接続予定があり、登録される端末も合計1000台近くになることが予測されます。

現在の目録システムはRDB1というデータベース管理システム(DBMS)によって支えられていますが、当センターでは、増加する接続台数に対処すると同時に、目録システムの性能を向上させるために、今年度、DBMSを現在のRDB1からXDM/RDという後継システムに移行させることを計画しています。

目下、そのための動作確認テスト及び負荷テストをセンター内で実施しており、テスト結果の評価が終了した段階で、移行作業を開始する予定です。移行はまず、教育用システムについて行います。時期は平成元年10月中旬ごろを予定しています。作業を開始する日時については、決定し次第オンライン目録システムのニュース画面でお知らせします。

なお、業務用システムの移行については平成元年12月～平成2年1月にかけて行う予定です。

コード類のチェックエラー対策

前号でもお知らせしました、オンライン目録システムでのコード類のチェックエラーについて、10月19日の業務終了後にシステム上の対策を行う予定です。

なお、現在までに報告があったエラー情報の件数は1件でした。

目録システムに関する最近の質問書から

(1) 本書名の取り扱いについて

Q:

「教養課程物理学」のような書名は、そのまま記述するのか、レイアウトによって扱いが異なるのか。

A:

「教養課程」が冠称とみなせる場合は、国立国会図書館の適用細則に従い、標題関連情報(副書名)に準じて記入します(TR:物理学△:△教養課程...)

冠称とみなせない場合は、直接形で記入します。間の空白については、通常はつめて記入します(TR:教養課程物理学...)。ただし、空白をつめることによって意味が曖昧になったり著しく元の形を損なってしまうような場合は、空白を含んだ形で記入を行います。例えば、「TURBOCプログラミング入門」のような書名は、以下の形で記入します(TR:TURBO△Cプログラミング入門...)

(2) 著者名典拠(団体名)における参照形について

Q:

目録情報の基準によれば団体の内部組織はそれぞれの形を標目としてレコードを作成することになっているにもかかわらず、上位団体の参照形として処理されている例が目につく。そのような方法が許されるのか。例えば、

「HDNG:経済企画庁物価局」として作成されるべきところが、「HDNG:経済企画庁」のSFにしか記入されていないレコードが存在する。

A:

このような場合は、内部組織のレベルで著者名典拠レコードを作成します。従って上記例は、「HDNG:経済企画庁物価局」のレコードを作成し、

「HDNG:経済企画庁」のレコードから「SF:経済企画庁物価局」の形を削除する必要があります。さらに、誤って「HDNG:経済企画庁」にリンクされている書誌レコードがあれば、著者名リンクの付替作業が発生します。

なお、「HDNG:経済企画庁物価局」のレコード中で「SF:経済企画庁.△物価局」のように副標目形を記録することができます。この方法によって、著者名典拠検索において「経済企画庁」の入力を行うことにより、内部組織レベルのレコードをも一括して検索することが可能となります。

(3) LC番号による検索について

Q:

UKMARC、およびUKMARCからの流用で作成されたレコードにおいて、LCCNが8桁完全に記入されていないものがある。これらのレコードについてはLCCNによる検索時にヒットしないため、重複書誌が作成されるおそれがある。

A:

この件については、今年度のシステム開発において対策を行う予定です。進捗状況等については、今後のニュースレターで逐次お知らせする予定です。

なお、LCCN(他にもISBN等の一意番号)での検索は、効率よく検索を行えるため多用される傾向がありますが、オリジナル入力等の状況によっては必ずしもレコード中にそれらの番号が記入されているとは限りません。従って、LCCN等による検索で既存レコードでなく参照レコードにヒット(または完全にノーヒット)した場合は、書名と著者名の組み合わせ等、他の検索キーによる再検索を必ず行うよう注意してください。

(4) 入力レベルについて

Q:

コーディングマニュアルの1.0.1では、入力レベル「選択」の項目における目録担当者の恣意的な選択が否定されているが、自館で「データ記入を行わない」という選択をした場合、容易に記入が可能でも、絶対にデータ記入を行ってはならないのか、また、流用入力時には該当するデータを削除する必要があるのか。

A:

当該条文の表現が未熟なために混乱を招いてしまったこととお詫びします。当該条文(および注意事項)は、「選択」の判断は各参加組織の目録作成方針の反映であり、一人一人の目録担当者が独断で選択してはならない旨を示したものです。また、総合目録データベースの性格上、当該参加組織の選択したレベル以上に記入されたレコードについて、レベルダウンになるようなレコード修正(および流用入力)は認められません。

以上の点を踏まえ、各目録担当者は、その参加組織の方針に従いつつ、レコード内容がより正確に豊富になる方向でのレコード登録をお願いいたします。原則として「データ記入を行わない」参加組織においても、容易に記入が可能なら「データ記入を行う」方針を採ることもあるでしょうし、逆に、「データ記入を行う」方針を採っていても、参考文献類の徹底的な調査によってはじめてデータ記入が可能となるようなケースについては「データ記入を行わない」例外規定を設けることは、当然考えられることです。

なお、コーディングマニュアルの該当条文等については、次号以降のニュースレター付録において、差替え頁を刊行する予定です。

(5) VOLフィールドにおける巻次の補記について

Q:

以下のようなレコードを散見するが、1~7の番号付けの根拠は目録対象資料には見出せず、レコード作成館が自館の排架の都合で補記しているように思われる。このようなデータ記入の方法は認められるのか。

```
VOL: [1]
~
VOL: [7]
PHYS:7 v. in12...
~
NOTE: [3]UnitedProvincesofAgraan
dOudh:1. Theprovinces;rivers,
mountains,...
```

A:

続巻が刊行された場合の正巻について[正]と補記するのは正しい方法ですが、その場合に正巻を[1]、続巻を[2]とすることが認められないことはお分かりいただけだと思います。ニュースレターNo19において「VOLフィールドには識別可能な最低限の情報を記入するにとどめ」としたことと、笹レ録情報の基準纏ナ「巻次等がない場合は、[]に入れてこれを補記する」という条文からの拡大解釈で、巻次等があるにもかかわらず、巻次が長いからという理由で上記のような方法がとられたものと推察されます。上記例のような場合は、正しく巻次をVOLフィールドに記入してください。

重複レコード処理結果

前号でもお知らせしました重複レコードの統合処理及び削除予定レコードの削除処理について、その後に行った件数について報告します。

7月22日から10月6日までに各接続大学図書館から報告された重複レコードは報告書枚数にして、51枚(重複件数:和図書 149、洋図書 49、著者名典拠 51)でした。

当センターの調査分を含め、重複レコードの統合処理を行ったものは次のとおりです。

	重複の統合処理	削除予定レコードの削除処理
和 図 書	306	81
洋 図 書	706	24
和 雑 誌	0	176
洋 雑 誌	0	0
著者名典拠	2,151	166

(上記の統合処理結果については、8月1日付で各機関へ「修正結果報告」として、お送りしている分に含まれています。)

データベース登録状況

総合目録データベース

平成元年10月5日現在

データベース名			件数
図書	和	書誌	301,147
		所蔵	1,090,767
	洋	書誌	631,011
		所蔵	1,048,739
雑誌	和	書誌	47,585
		所蔵	1,031,122
	洋	書誌	103,193
		所蔵	854,374
著者名典拠			305,048
統一書名典拠			622
和雑誌変遷マップ			5,844
洋雑誌変遷マップ			12,778

参照ファイル

平成元年10月5日現在

データベース名	件数	収録内容
参照LC	図書	3,102,400 1968年1月～最新分
	雑誌	445,928 1973年～最新分
	著者名典拠	2,043,886 1977年～最新分
	統一書名典拠	11,380 1977年～最新分
参照JP	図書	923,026 1969年～最新分
	著者名典拠	26,288 更新なし
参照UK	図書	1,089,216 1950年～最新分
参照TRC	図書	179,026 1985年4月～最新分
参照GPO	図書	256,665 1976年1月～最新分